
倉敷市第六次総合計画

〈は じ め に〉

1 総合計画策定の趣旨

少子高齢化の進展，人口減少社会の到来，地球規模での環境問題，長引く景気低迷やグローバル化する経済情勢，そして地方分権の進展など，私たちを取り巻く環境は大きく変化しており，また，市民のニーズも多様化しています。

こうした中で，これからのまちづくりは，市民，団体，企業，行政が目標や目的を共有するとともに，各々の役割と責任の下，それぞれが努力し，行動していくこと，さらには，お互いの対話を一層進め，それぞれの連携の輪を広げていくことが必要とされています。

そこで，第六次総合計画では，これまでと策定手法を大きく変え，新たな市民参画の手法を取り入れながら市民の皆さまの意見を集約し，多様化する市民ニーズに対応した計画としました。

2 総合計画の特色

第六次総合計画は，次の3つの特色を有しています。

(1) ビジョンを共有する総合計画

市民の皆さまが望むめざすまちの姿を設定し，明確に示すことで，その実現へ向け，行政主体の「行政経営」から，地域の持続性を見据え，市民，団体，企業，行政の各主体が共通の目標に向かってまちづくりを行う「地域経営」への展開を可能とする計画づくりに努めました。

(2) 策定過程，対話重視の総合計画

計画の策定に当たっては，計画策定の初期段階より市民インタビュー，市民アンケートなど多くの市民参加をいただき，指標や目標値，役割分担の大きさなどについては，市民公募委員からなる「総合計画策定市民委員会」を設置して提案をいただくなど，新たな市民参加の手法を取り入れながら，市民意見を集約する策定過程・対話重視の計画づくりに努めました。

(3) 進捗管理できる総合計画

市民の暮らしに対する満足度の向上に向け，多様化する市民ニーズを的確に把握し，めざすまちの姿がどの程度達成されたかを測る指標と指標の目標値を設定し，毎年度実施するアンケート調査等により現状を把握した上で，行政評価と連動させ，次の手段（施策・事業）の考察・組み換えなど，優先化・重点化につながる計画づくりとしました。

3 総合計画の構成及び期間

(1) 構成

本計画は，「基本構想」「基本構想の推進」「構想実現計画」で構成します。

① 基本構想

倉敷市の「めざす将来像」を示すとともに，市民ニーズに基づいたまちづくりの理念やめざすまちの姿を明らかにし，また，めざす将来像とめざすまちの姿を実現するための市役所が行う基本的な取り組みとしての市の施策，市の基本方針を掲げています。

② 基本構想の推進

基本構想に掲げられためざすまちの姿の実現に向け，めざすまちの姿がどのくらい実現されているのか，その達成度を測るため，指標や目標値を設定し，行政評価と連動させることにより，着実な基本構想の推進を図ります。また，市民，団体，企業，行政などに期待される役割の大きさを示すとともに，それぞれが行動し，また連携していくことのきっかけづくりとして，市民や事業者等が取り組めることを「私たちができること」として例示しています。

③ 構想実現計画

基本構想に掲げられためざすまちの姿の実現に向け，市の施策に基づき，各年度に実施する具体的な事業を社会情勢や財政状況を踏まえ選択しとりまとめた，中期的視点を持った計画とします。

(2) 期間

基本構想の期間は，平成23年度から令和2年度までの10年間とします。構想実現計画は4年間の計画とし，令和2年度までの期間，ローリング方式により毎年度見直しを行います。

4 市政運営に大きく影響する社会的要因

(1) 人口減少と少子高齢化社会への対応

少子高齢化の進行は総人口に占める生産年齢人口割合の低下による経済活動への影響だけでなく、社会保障費が増大し、社会保障制度の持続可能性が大きな問題となることが懸念されます。このため、社会保障制度の持続可能性を高めるための制度設計はもとより、出産、子育て、子育て環境の充実、男女共同参画社会の実現により、女性就業率を高めること、また、働く意欲が強い高齢者が働くことができる環境づくりなど、労働力低下への対応が求められています。

(2) 地方分権と住民自治の進展

これからの倉敷市の発展のためには、倉敷市のもつ潜在力を生かすとともに、まちづくりの主体となる市民、団体、企業、行政などが目標や目的を共有し、それぞれが連携してまちづくりを行っていくことがますます重要となっています。このため、まちづくりの各主体が情報を共有でき、活動しやすい環境の整備・充実などにより、住民自治を重視した取り組みを一層進めていく必要があります。また、昨今、人や企業はより魅力ある場所へ移動するなど、地域が選ばれる時代となっており、地域の資源を活用し、その個性を磨き、地域の存在感を高めていくことが一層求められています。

(3) 環境に対する意識の高揚

大量生産、大量消費という20世紀型の社会経済システムは、物質的な豊かさをもたらしましたが、それと引き換えに自然環境への負荷を増大させ、それに起因する環境問題は、ますます深刻化、表面化するようになりました。とりわけ地球温暖化防止への取り組みは、世界共通の喫緊の課題です。

環境問題の解決に向けては、日常生活や社会経済活動の中で、市民一人一人が自分のこととして捉え、行動するなど、各主体の取り組みの積み重ねが大きな効果となります。

(4) 成熟社会での市民生活

モノを大量消費して発展してきた成長型社会から、他人への思いやりといった心の豊かさを重視する成熟型社会に移行してきている中であって、人と人とのつながりを地域社会の中で再構築していく社会的ネットワークづくりが、子育てや高齢者・障がい者への対応、地域の安全・安心の確保など、様々な地域課題に対応していくうえで大変重要な要素となっています。

(5) グローバル経済の中での地域産業

産業経済活動のグローバル化によって、生産拠点の海外移転などによる産業の空洞化を招くなど、地域の持続的な発展が懸念されている中、企業間連携や産・官・学の連携などにより、技術革新、生産効率の向上を図るとともに、知的財産の活用や新たな価値創造など、付加価値を重視した産業戦略が求められています。

また、世界の人口と食料生産との不均衡が顕在化し、世界的に食糧問題が懸念される中、我が国における食料自給率の向上が求められるなど、産業構造における農業の位置付けは重要性を増しています。

5 将来人口の見通し

本市の今後10年間の将来人口について推計したところ、平成24年をピークに、その後は減少傾向に転じることとなります。

また、15歳から64歳までの生産年齢人口は年々減少し、平成32年には平成23年と比べて約2万2千人減少すると予想されます。逆に、総人口に占める65歳以上の人口の比率、いわゆる高齢化率は年々増加し、平成32年には26.9%に達すると予想され、平成23年と比較すると約4.7%上昇することとなります。

〈基本理念〉

1 倉敷市のめざす将来像

新たな時代に対応したまちづくりを進めるため、まちづくりの主体となる市民、団体、企業、行政が目標や目的を共有するとともに、各々の役割と責任の下、それぞれが努力し、行動していくこと、さらには、お互いの対話を一層進め、それぞれの連携の輪を広げていくことで、倉敷らしい個性をさらに伸ばし、世界に通じる人材の育成と交流、知の創造と社会貢献などを世界に向けて発信し、世界に誇る開かれた倉敷市を目指すという決意のもと、倉敷市のめざす将来像を「自然の恵みとひとの豊かさで個性きらめく倉敷」としています。

2 まちづくりの理念

16歳以上の倉敷市民の中から無作為に抽出した5,000人及び市民モニター395人にアンケートを実施し、重要と答えた次の8つの理念を倉敷市がめざすまちづくりの理念としました。

- 「安全・安心」 日々の暮らしに不安がなく、安心して生活できるまち
- 「快適」 毎日が気持ちよく暮らせ、住みやすい環境のまち
- 「豊か」 生活に潤いを感じられ、心豊かに暮らすまち
- 「優しさ」 優しさにあふれ、お互いを気遣いながら暮らすことができるまち
- 「はぐくみ」 健やかな心と身体が大切に守られ、育てられているまち
- 「共生」 お互いを尊重しあいながら、共に生活しているまち
- 「躍動」 人々が行き交い、いきいきと暮らす活気あふれるまち
- 「自律」 自らを律することができる力を備え、お互いに信頼できるまち

〈47のめざすまちの姿〉

市民インタビューを実施し、市民が考えるめざすまちの姿を出していただいた後に、アンケートを実施し、市民が重要と考えるめざすまちの姿を36にまとめ、広域的・長期的な視点から行政として必要と思われる11のめざすまちの姿を加えた47の課題をめざすまちの姿としました。

1 教育・子育て

【めざすまちの姿】	【理念】
① だれもがその人らしさ（個性）を尊重され、幸せに暮らしていくことができている	共生
② 人の痛みを、実感として子どもたちがわかっている	優しさ
③ 教員の資質が保たれるなど、学校教育が充実している	自律
④ 子どもたちが自然にふれながら、健やかに育っている	豊か
⑤ 安心とゆとりをもって子育てを楽しんでいる	はぐくみ
⑥ 親が子どもとふれあう時間をもつことができ、仕事と家庭の両立ができている	はぐくみ
⑦ 地域がつながり、助け合い、互いの信頼関係の中で、子どもたちを守っている	はぐくみ
⑧ 学校、コミュニティ、家庭が連携して、子どもが学び、成長できる環境となっている	はぐくみ
⑨ 障がいの有無にかかわらず、等しく教育・保育を受けることができる	はぐくみ
⑩ だれもが興味があることを、気軽に学べている	豊か

2 文化・産業・都市基盤

【めざすまちの姿】	【理念】
① 生活の中に個性的で魅力的な文化が息づいている	豊か
② 世代を超えて受け継がれてきたくらしき文化が大切に継承され、輝いている	豊か
③ だれもがどこに住んでいてもいつでも気軽にスポーツを楽しむことができている	快適
④ 経済活動が活発で、働く機会が充実している	躍動
⑤ 商店街がにぎわい、まちに活気がある	躍動
⑥ 地域の産業が時代の流れに対応し、活性化している	躍動
⑦ 若者の働く場所があり、生計を立てられ、将来の見通しがもっている	躍動
⑧ 心に充足感やゆとりをもち、家庭と仕事の調和がとれている	豊か
⑨ 市中心部のにぎわいの再生と利便性の向上が図られて、まちづくりが行われている	躍動
⑩ 特色を生かした各地域の活性化と住民の生活向上が行われている	躍動
⑪ 美観地区などの歴史的な景観が保全されるとともに、まち全体としても魅力的な景観を有している	快適
⑫ 倉敷の魅力を積極的にPRし、たくさんの人が訪れるようになっている	躍動

3 生活環境

【めざすまちの姿】	【理念】
① 経済や開発による発展と環境保全のバランスが保たれている	快適
② 市内のすべての地域で、水と空気と大地がきれいである	快適
③ リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（ごみの再生利用）が徹底され、循環型社会が形成されている	快適
④ ごみがポイ捨てされておらず、まちがきれいである	豊か
⑤ 地球温暖化対策に対する意識をもって行動し、低炭素社会が形成されている	快適
⑥ 犯罪が少なく、安心して暮らしている	安全・安心
⑦ 行政と市民、企業等が連携をとり、災害に備え対策をとっている	安全・安心
⑧ 常に安全でおいしい水が届いている	安全・安心

4 保健・医療・福祉

【めざすまちの姿】	【理念】
① 市民が自分の健康に関心を持ち、健康づくりに自ら取り組んでいる	快適
② 豊かな自然の恵みにより食べ物がおいしく、健全な食生活が実現されている	快適
③ 市内のどこに住んでいても、だれもが安心して、医療を受けている	安全・安心
④ だれもが（歩行者や自転車、車いすなど）安全に移動できる道路環境となっている	安全・安心
⑤ 交通弱者が不便なく行きたいところに行くことができる	快適
⑥ 障がい者が、地域の人と安心して共に暮らせるようになっている	安全・安心
⑦ 障がい者の社会参加や働く場が確保され自立して生活している	共生
⑧ 高齢者世帯やひとり暮らしの高齢者が、老後を安心して暮らすことができる	安全・安心
⑨ 尊厳が守られながら必要な介護サービスを受けることができる	安全・安心
⑩ 高齢者が生きがいをもって活動している	共生

5 行財政・市民協働・コミュニティ

【めざすまちの姿】	【理念】
① 町内会をはじめコミュニティの中で世代を超えて、助け合って暮らしている	優しさ
② ボランティア・NPOなどの市民活動が活発に行われている	自律
③ 行政が、税金の無駄遣いをしていない	自律
④ 行政が、企画立案・実施・評価・改善（PDCA）の中で、市民ニーズに的確に対応し、施策を見直している	自律
⑤ 公共の施設が、市民にとって安全で使い勝手がよく、有効に活用されている	快適
⑥ 市役所が市民に一番身近な窓口として課題解決に向けて迅速に責任をもって対応している	自律
⑦ 若者が住んで楽しいまちになっている	躍動